

【実践報告】

教育実習Ⅲ（幼稚園，2019年度）の現状と課題 ～実習生のアンケート調査から～

広島文教大学教育学部

教育学科 教授 杉山 浩之 講師 長澤 希 准教授 牧 亮太

I はじめに

教育実習Ⅲ（幼稚園2週間）は、本学では4年生が行う実習である。2年生の観察実習（前期3日間終日）から始まり、3年次の幼稚園実習（2週間）、保育所実習（10日間×2回）を経て、本学における教員（保育者）養成として最後の実習となる。4年生はこの実習を終えて、それぞれの進路に向けての就職活動に入る。このような意味において、保育者の卵として最終段階となる実習であった。これまでの実習で培った実践力を大いに発揮し、磨きをかけると同時に、より質の高い課題を発見する機会でもある。

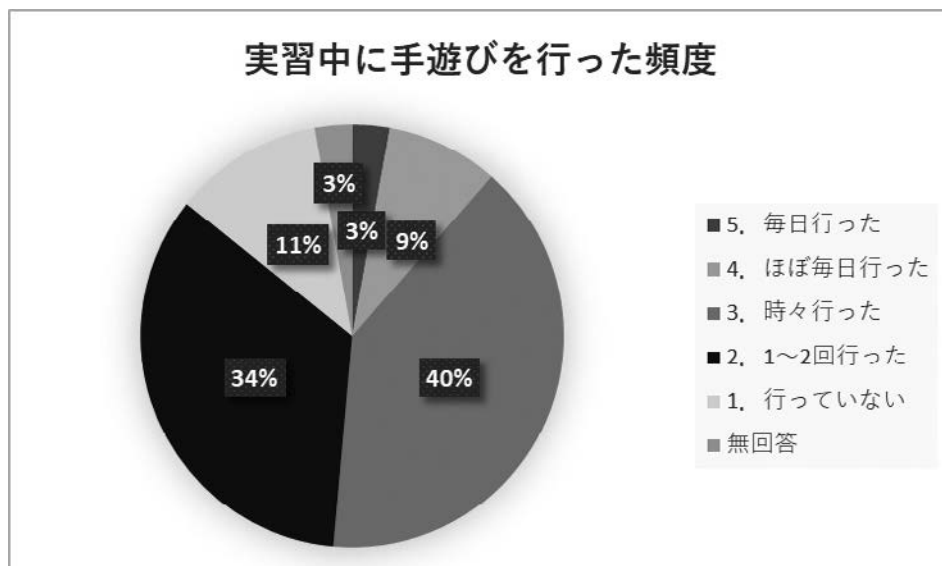
2019年度は、5月27日（月）より2週間にわたり、出身園や郷里の幼稚園で実習を行った。幼児教育コースの47名の学生が実習を行い、実習後にアンケートを実施した結果、35名の学生が回答（回収率74.5%）をした。以下、アンケート項目に従って、分析（%は小数点第1位を四捨五入した）と考察（批評）を示し、教育実習の現状と課題を明らかにする。

II アンケート結果及び考察

1 手遊びの頻度

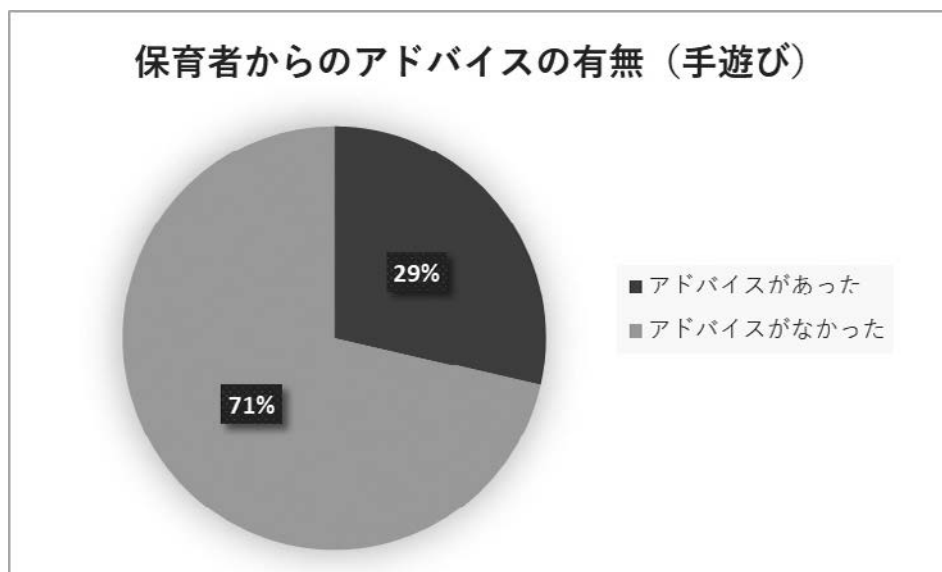
① 手遊びを行った頻度

「毎日行った」（3%）「ほぼ毎日行った」（9%）と合わせると1割強である。大変積極的に行った学生は多くはない。そして「時々行った」（40%）を加えると半数を超える。残りの半数は「1～2回行った」および「行っていない」ということである。実際に幼稚園でどの程度の頻度で手遊びを行っているのか様子は分からないが、昨年度のデータでは、「ほぼ毎日行った」が47%あったことから本年度はやや消極的な姿勢が見られたと言える。



② 手遊びへのアドバイス

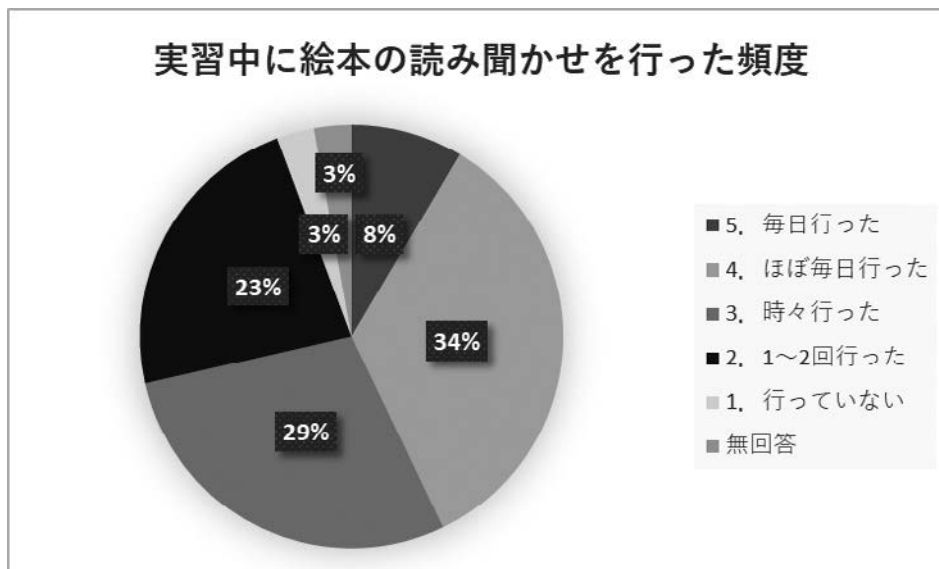
手遊び後にアドバイスを受けていた（29％）学生は、昨年度（83％）と比較して半数以下であった。変化の原因がどこになるのかは不明である。アドバイスを必要としないほど上手にできていたと解釈してよいのだとすれば好ましいが、先生方の見ていない所で行っている可能性もある。



2 絵本の読み聞かせ

① 読み聞かせの頻度

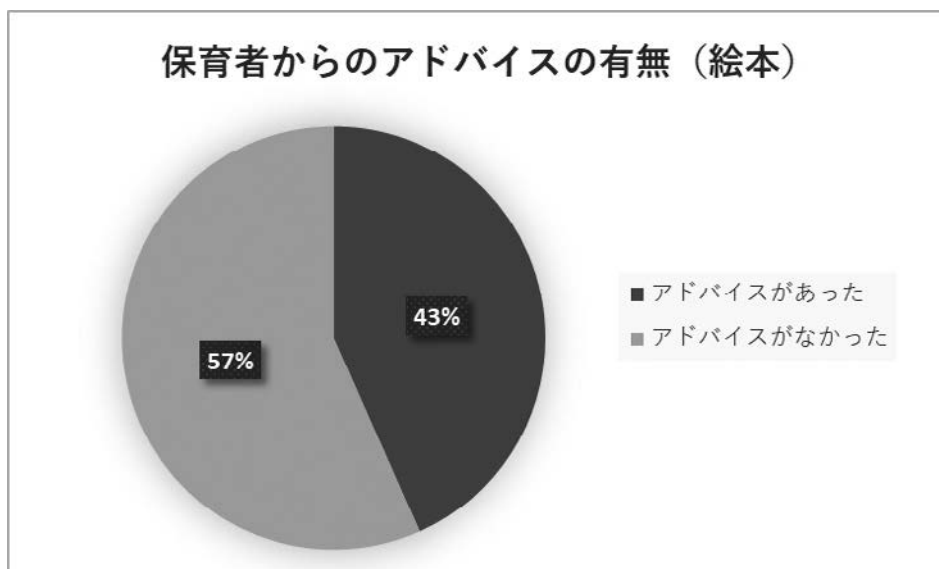
「毎日行った」(8%)「ほぼ毎日行った」(34%)と合わせると4割強である。大変積極的に行った学生が多いことが分かる。そして「時々行った」(29%)を加えると7割を超える。昨年度のデータと比べて、ほとんど差はなかった。



② 読み聞かせへのアドバイス

アドバイスを受けた学生(43%)は昨年度(48%)と比較するとほぼ同じ程度であった。

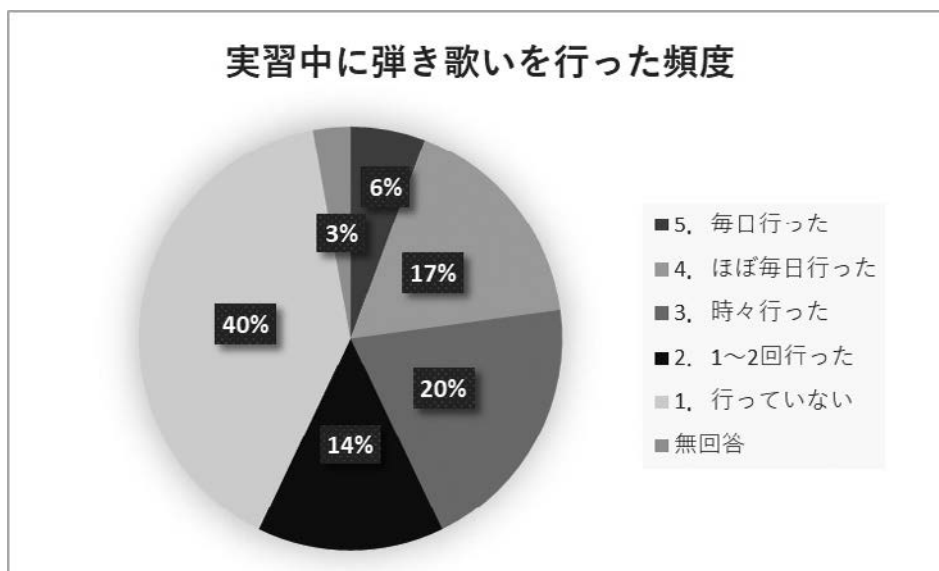
手遊びと同様に、アドバイスの必要ないほど上手にできていれば好ましいのはあるが、先生方が実際の様子を見ていないところで読み聞かせを行ったことが多いのだらうと推測される。



3 弾き歌い

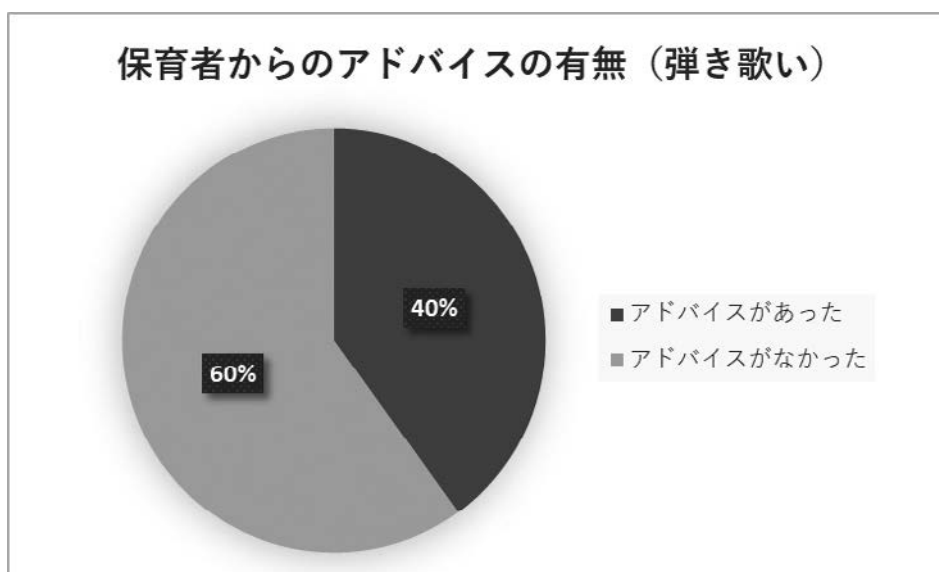
① 弾き歌いを行った頻度

「毎日行った」(6%)「ほぼ毎日行った」(17%)と合わせて2割強である。手遊びと同様、大変積極的に行った学生は多くはない。そして「時々行った」(20%)を加えても半数以下である。残りの半数以上が「1～2回行った」および「行っていない」ということである。実際に幼稚園でどの程度の頻度で弾き歌いを行っているのか様子は分からないが、昨年度のデータでは、「ほぼ毎日行った」(30%)「時々行った」(38%)と比較すると本年度は消極的な姿勢が見られたと言える。



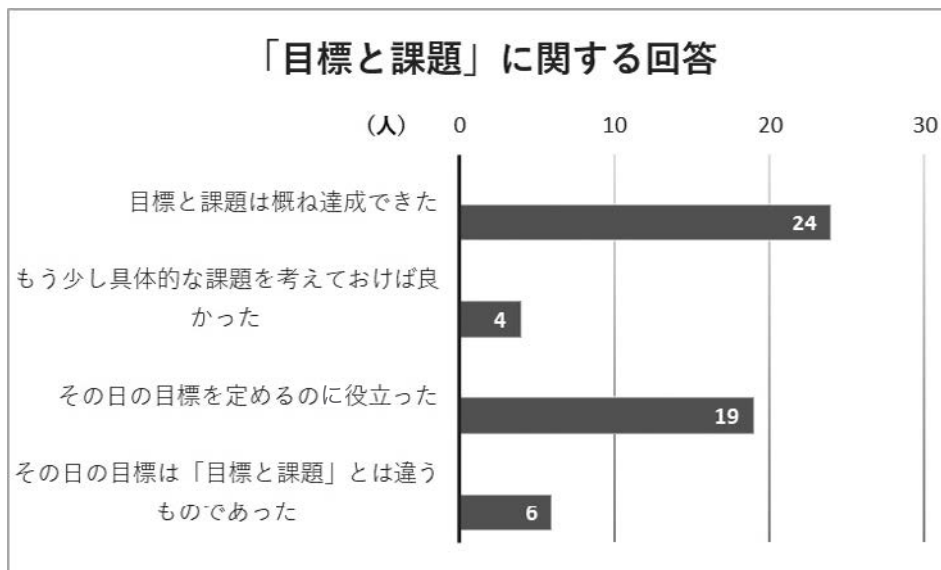
③ 弾き歌いへのアドバイス

弾き歌い後にアドバイスを受けていた(40%)学生は、昨年度(44%)と比較してほとんど変わらない。手遊びや読み聞かせと同様に、見ていない所での実習ということも考えられるが、弾き歌いの場合、先生方も同じ教室にいる可能性は高いように思われる。だとすれば、問題ない弾き歌いをしているのかもしれない。



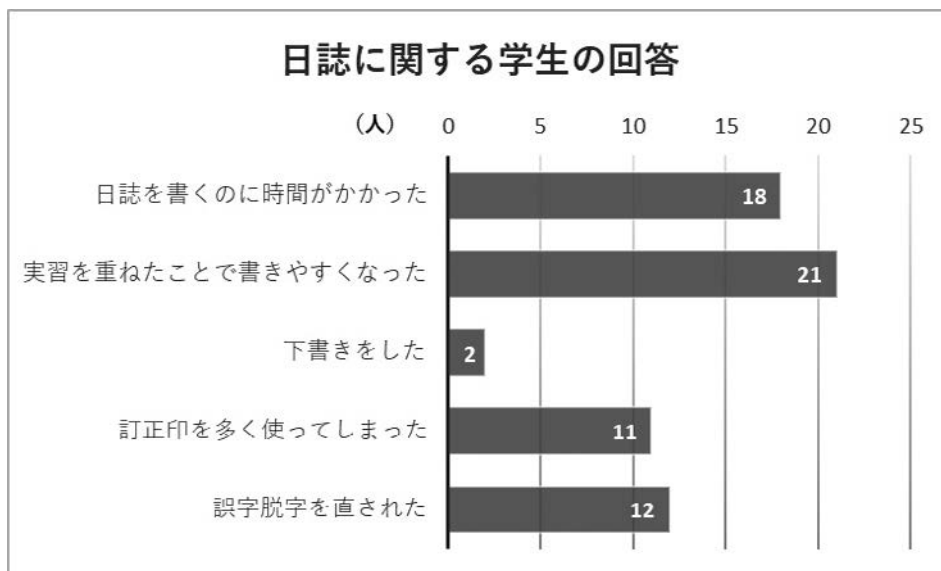
4 「目標と課題」

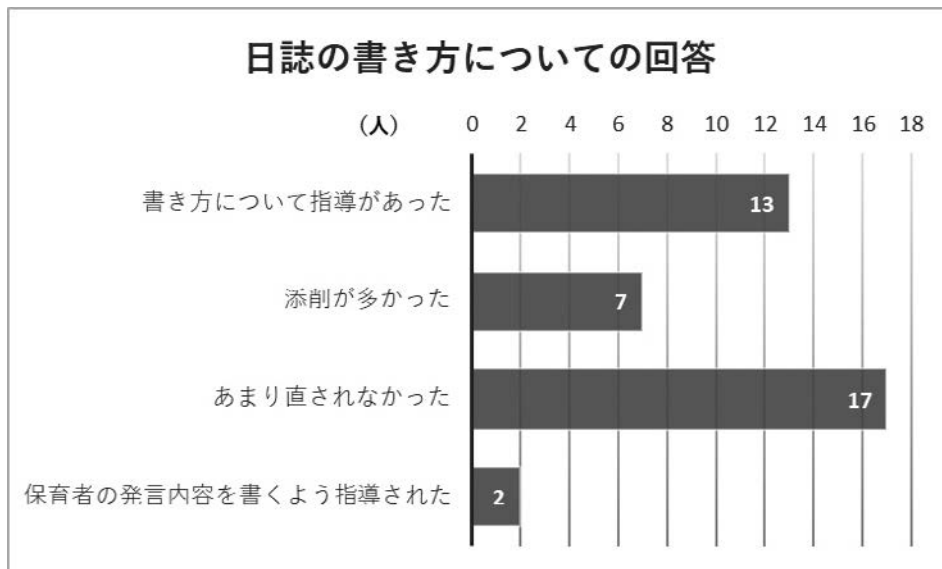
「概ね達成できた」(24人), 「その日の目標を定めるのに役立った」(19人) から見るように「目標と課題」は実習に有効に作用していることが分かる。この傾向は昨年度と比べてもほぼ同様である。



5 日誌

「日誌を書くのに時間がかかった」「実習を重ねたことで書きやすくなった」が上位2つにあるが、これは昨年と同様であった。「余り直されなかった」という回答も多いが、これは昨年よりも増えている。その他も昨年とほぼ同様であった。





6 反省会

「クラスで毎日反省が行われた」(64%)と「最終日に行われた」(36%)であるが、この差は学びの点で大きな差が出るように予想される。園の実習指導体制によるものであり、今後の巡回指導の際に情報収集することも必要な事であろう。

7 実習全体の評価

「期待通りの学びがあった」(47%)、「学びがあった」(50%)を合わせるとほぼ全員となる。「あまりなかった」(3%)は1名である。事後指導において本データを活用していく必要があるだろう。

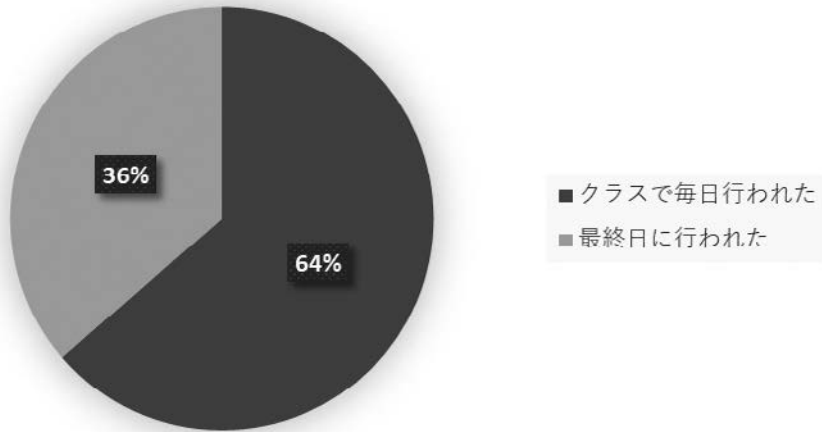
III おわりに

はじめに述べたように「教育実習Ⅲ」は本学における教員養成のなかで最後の仕上げの教育実習である。アンケートの分析を通して、特筆すべきことを以下に挙げてまとめたい。

昨年度の変容が顕著であった内容は、①実習でピアノを弾いた学生が急激に減少したこと、②反省会を毎日行った園が3割も減少したことであった。本年度の場合、手遊びと弾き歌いは、ともに減っており、年々減っていることが伺える。読み聞かせは、変動はないようである。また、手遊びや弾き歌いを行った実習生へのアドバイスがなされないケースも少なくないのは課題である。日誌指導については、十分に行われている様子が伺える。実習園における反省会もしっかりと行われている。実習後の学生の満足度も相対的に高く、細かい点では課題はあるが、総合的に見れば、十分にご指導を頂いていると見ることが出来るであろう。

以上

反省会についての回答



実習全体を通した学びについての回答

